

授業科目 日常生活活動学

【担当教員名】 小林 量作		対象学年	2	対象学科	理学
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	45
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	○	◎	
【一般目標：GI0】					
<ol style="list-style-type: none"> ADL についての基本的知識，基本的指導技術や介助方法を習得することによって，ADL の重要性を学ぶ。 実習で担当する代表的な疾患の ADL 問題点抽出，目標設定，ADL プログラム立案ができるようになる。 模擬事例についてのグループ発表を通じて，主体的に学習することを体験する。 					
【行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> ADL 概念，範囲，各種評価法の特徴を理解している。 起居動作，移動動作，移乗動作，身の回り動作，福祉用具について理解している。 聴取の技術，起居動作，移乗動作，車いす操作技術を習得している。 歩行様式，応用歩行，階段昇降の指導，介助方法を習得している。 脳血管障害，大腿骨頸部骨折，パーキンソン病の事例について ADL プログラムを立案できる。 					
回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1	概念，範囲，分類	1	講義、担当：小林 量作		
2	ADL 評価 1（総論，各種評価）	1	講義、担当：小林 量作		
3	ADL 評価 2（総論，各種評価）	1	講義、担当：小林 量作		
4	身の回り動作	2	講義・学生発表、担当：小林 量作		
5	起居動作 1	2	講義・学生発表、担当：小林 量作		
6	起居動作 2	2	講義・学生発表、担当：小林 量作		
7	移動動作	2	講義・学生発表、担当：小林 量作		
8	福祉用具	2	講義・学生発表、担当：小林 量作		
9	ADL 聴取の実際	2,3	演習・実技、担当：小林 量作 他		
10	起居動作の実際 1	2,3	演習・実技、担当：小林 量作 他		
11	起居動作の実際 2	2,3	演習・実技、担当：小林 量作 他		
12	移乗動作の実際 1	2,3	演習・実技、担当：小林 量作 他		
13	移乗動作の実際 2	2,3	演習・実技、担当：小林 量作 他		
14	歩行の実際 1	2,4	演習・実技、担当：小林 量作 他		
15	歩行の実際 2	2,4	演習・実技、担当：小林 量作 他		
16	歩行の実際 3	2,4	演習・実技、担当：小林 量作 他		
17	車いすの構造、チェック	2,3	演習・実技、担当：小林 量作 他		
18	車いす操作の実際	2,3	演習・実技、担当：小林 量作 他		
19	ADL 問題点、目標、プログラムの考え方	1,2,3,4,5	演習、担当：小林 量作		
20	脳血管障害の事例	1,2,3,4,5	演習、担当：小林 量作		
21	大腿骨近位部骨折の事例	1,2,3,4,5	演習、担当：小林 量作		
22	パーキンソン病の事例	1,2,3,4,5	演習、担当：小林 量作		
23	まとめ	1,2,3,4,5	演習、担当：小林 量作		
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		日常生活活動学・生活環境学（第4版）	鶴見隆正，編，隆島研吾，編	医学書院	2012・5,670 円
参考書					
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
出席確認を毎回実施して評点する。 学生がゼミ単位で発表する（4回～8回）。 期末試験は筆記試験及び実技試験とする。		演習，実技では実習できる服装で出席する。			